

「笠間に親鸞を追ふ」 塚越としを

唯信精舎空明るうす梅擬 ゆいしんしやうじや うめもどき

秋桜咲かせて宍戸聖なる地 ししど

蝗飛ぶ稲田の道や靈氣満つ いなせ

秋麗の稲田御坊や大銀杏

秋氣澄む仏縁ありて玉日姫

実石榴の笑み零れをり玉日廟 ぎくろ こぼ

笠間郷に大慈大悲や秋の声

一人来て親鸞さまよ翳雲

稻荷社の赤き幟や鳥渡る のぼり

白菊や父の生き様想ひをり

◆笠間の親鸞：法然と共に京都を追われた親鸞は越後から笠間に移り、ここで、約二十年間専修念仏の布教に勤めた。石岡・結城・下妻・筑波・真岡なども含め広範囲にその足跡が残っている。

◆唯信精舎：茨城県笠間市太田町の唯信寺。開基・唯信房は、宍戸城主の三男で親鸞の教えに感激して弟子入り、一途に他力信仰の教化に励んだ。

◆稲田御坊：同市・稲田の西念寺。親鸞が草庵を結んだ地で聖典「教行真証」を執筆した。  
「浄土真宗開闢(かいびやく)之靈地」の碑が立ち、親鸞聖人の御頂骨堂がある。

◆玉日姫：親鸞の妻とされている女性。廟が西念寺の東方一キロの丘に向かい合うように建つ。  
◆稻荷社：日本三大稻荷の一、笠間稻荷神社。恒例の「菊まつり」の時期でもある。

平成二十七年十月